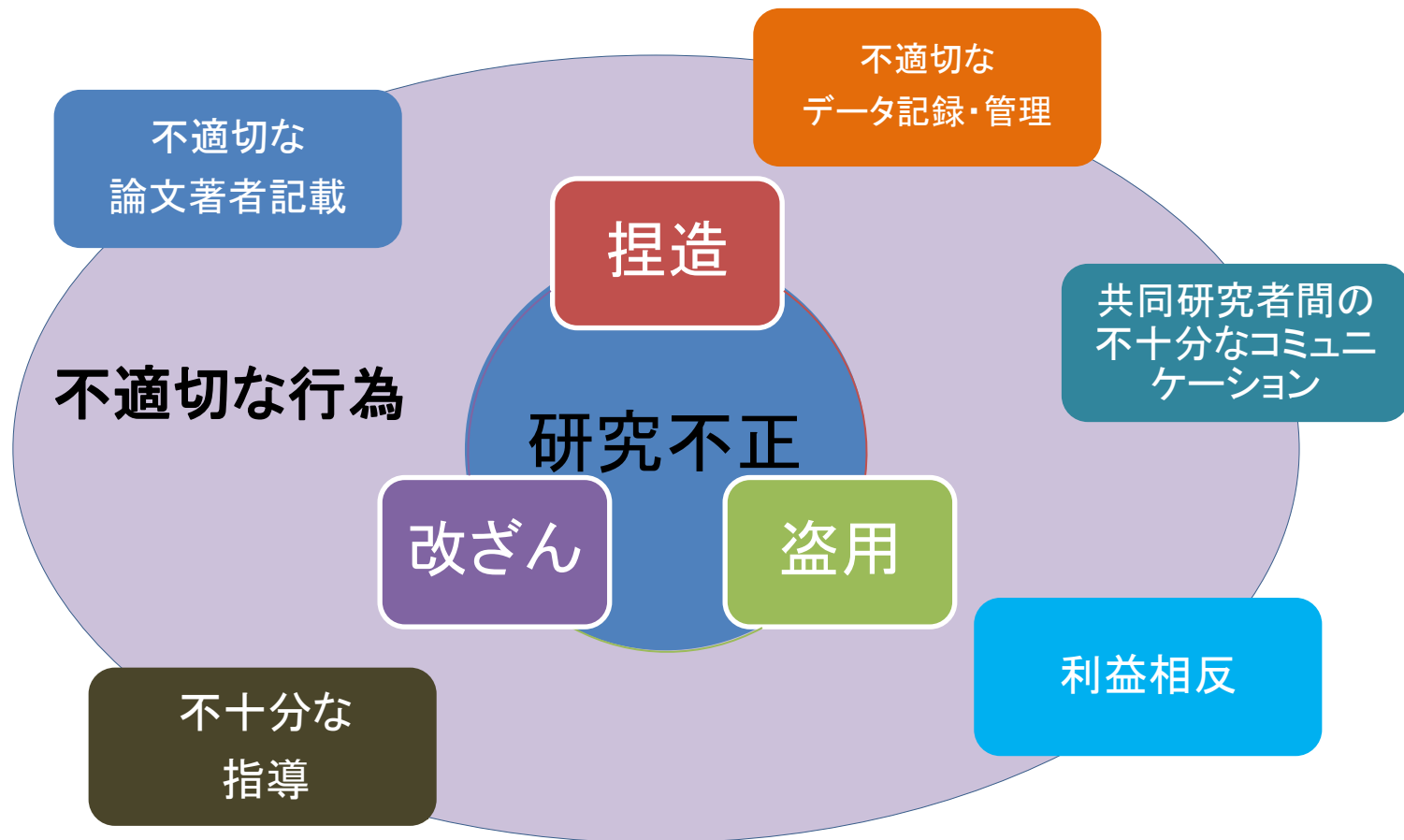


研究不正再発防止のための 基本的な考え方(私案)

大阪大学全学教育推進機構

中村 征樹



- 今回の事態では、研究不正だけでなくさまざまな不適切な行為が発生
- 不適切な行為との密接な関係のなかで、研究不正が発生
- 小保方氏だけでなく、笹井氏・若山氏らも「未熟」



- 研究不正だけでなく、不適切な行為も含めた対策が必要：信頼性の高い研究
- 若手研究者だけでなく、シニア研究者についても研究倫理に関する対策が必要

参考	過去3年間に行った研究不正・不適切な行為 (米国, 自己申告, n=3,247)	全体	中堅	若手
	改ざん、あるいは研究データに「手を加えた」	0.3	0.2	0.5
	ヒト被験者保護に関する重大な不備	0.3	0.3	0.4
	自らの研究に基づく製品の製造企業との関係を適切に開示しなかった	0.3	0.4	0.3
	学生・被験者・依頼人とのあいだに問題あると解釈されうる関係をもった	1.4	1.3	1.4
	他の研究者のアイデアを、本人の許可をえることなく、あるいは名前を言及せずに使用した	1.4	1.7	1.0
	研究において秘匿すべき情報を許可なく利用した	1.7	2.4	0.8
	みずからの先行研究と矛盾するデータを開示しなかった	6.0	6.5	5.3
	ヒト被験者保護に関する軽微な不備	7.6	9.0	6.0
	他人の不備のあるデータや懸念あるデータ解釈を見過ごした	12.5	12.2	12.8
	研究資金配分機関からの圧力によって、研究のデザイン、方法、結果を変更した	15.5	20.6	9.5
	同一のデータや研究成果を複数の論文で発表した	4.7	5.9	3.4
	不適切なかたちで論文著者を記載した	10.0	12.3	7.4
	論文や研究計画書で実験方法の詳細を記載しなかった	10.8	12.4	8.9
	不適切・不十分な実験デザイン	13.5	14.6	12.2
	不正確だという直感だけで、観察結果やデータを分析から除外した	15.3	14.3	16.5
	研究プロジェクトに関する記録の不適切な管理	27.5	27.7	27.3

信頼性の高い
研究活動

不適切な研究行為の
抑制

研究不正の
防止



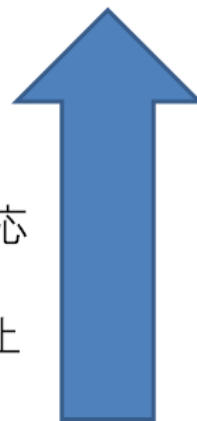
基本的な考え方: 研究不正を防止し、不適切な行為を抑制することは、
信頼性の高い研究を促進し、研究力の向上に資する

すぐれたリーダーシップと
現場のコミットメントによる実現



価値共有型

懸念ある行為への対応
誠実な研究の促進
研究不正の予防・防止



コンプライアンス型

研究不正への対応
不正告発の受理
懲罰



G. Baghdadadi-Sabeti, "Good Governance for Medicine" World Conference on Research Integrity, 17/09/07.

● 研究不正に関するガバナンスの強化

- 信頼性の高い研究にむけた全構成員のコミットメント
- 研究不正を防止し信頼性の高い研究を促進する研究支援体制・環境構築

すぐれたリーダーシップと現場のコミットメントによる実現

実効性があり、かつ研究現場の活力をそこなわない体制

■ 研究分野の特性

■ 現場の研究者 (non-PI, テクニシャンも含む) の関与

- 研究不正に関するガバナンスの強化
 - 研究不正防止にむけたリーダーシップ (責任・権限)
 - 研究不正に関するルール・責任・役割の明示化
- 信頼性の高い研究にむけた全構成員のコミットメント
- 信頼性の高い研究を促進する研究支援体制・環境構築
 - 信頼性の高い研究: データの適切な記録・管理、共同研究の運営、適切な論文著者記載なども含めた広義の研究倫理の実現にむけた取り組み
 - 研究不正の防止だけでなく、研究成果の質の向上に寄与
 - ルールの明示化、「見える化」と共有 (監督と相互チェックの仕組み)
 - 信頼性の高い研究を実現する「仕組み」の構築

対策の「実施」から「実効化」へ

理化学研究所における従来の取り組みの問題点

- 規定の整備・周知・遵守(確認書のサイン等)で終わっていたのではないか？
- 研究倫理に関する知識の周知・更新のためには、研究倫理教育等の必須化は欠かせないが、それだけでは不十分
- 形式的な規制の強化は、一歩間違えると柔軟性を欠き、研究の活力をそぐことにもなりかねない
- 信頼性の高い研究行為が現場に浸透すること(パフォーマンス)が重要

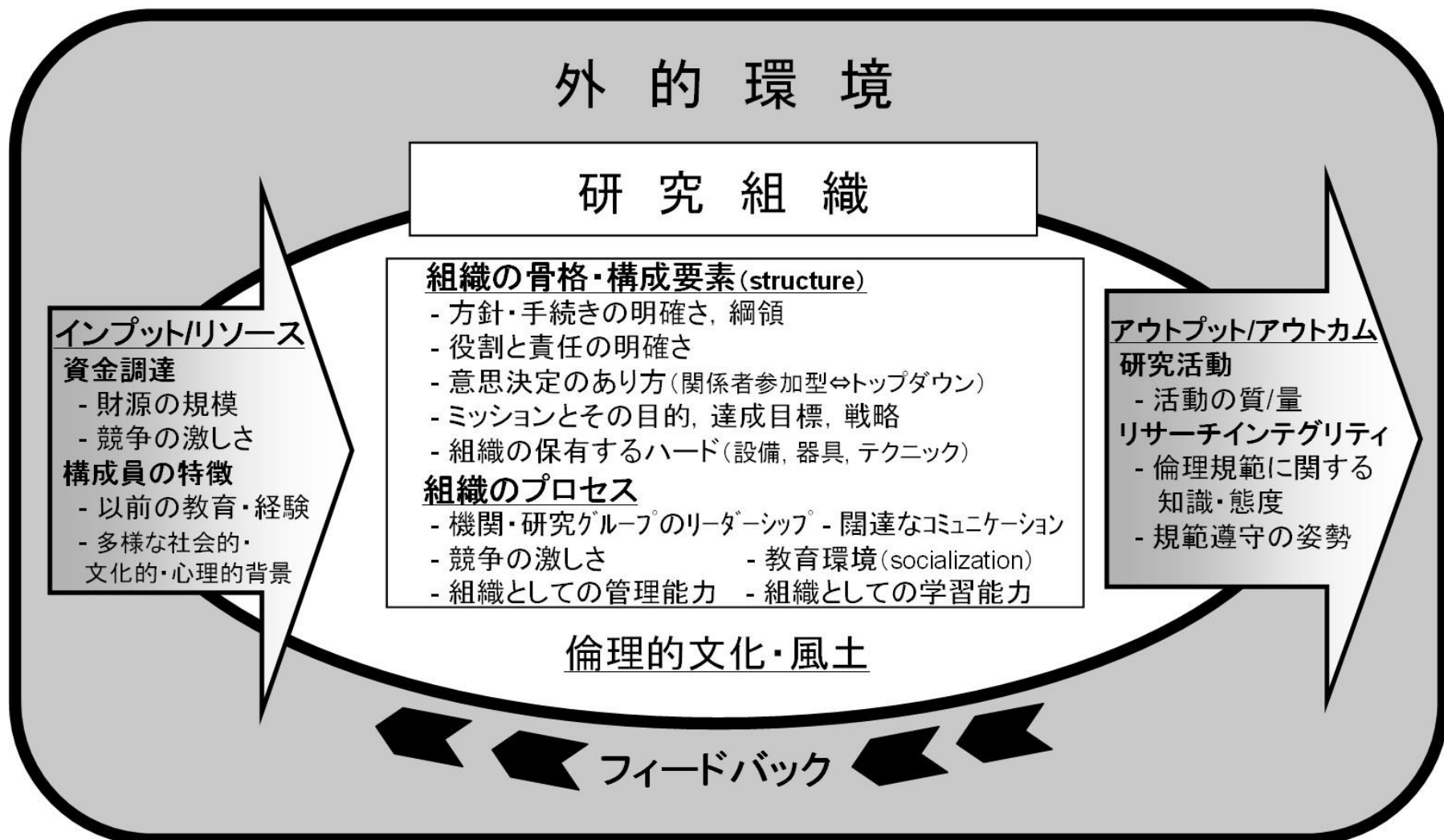
□「仕組み」の構築

- 例:ラボノートの利用やデジタルデータの管理など、ラボの責任と個人個人の意識に委ねるのではなく、組織全体の共通手順や管理体制、支援システムを作ることにより「普通にやっていたらとくに意識せずとも望ましいデータ記録・管理の条件が満たされている」ような仕組み

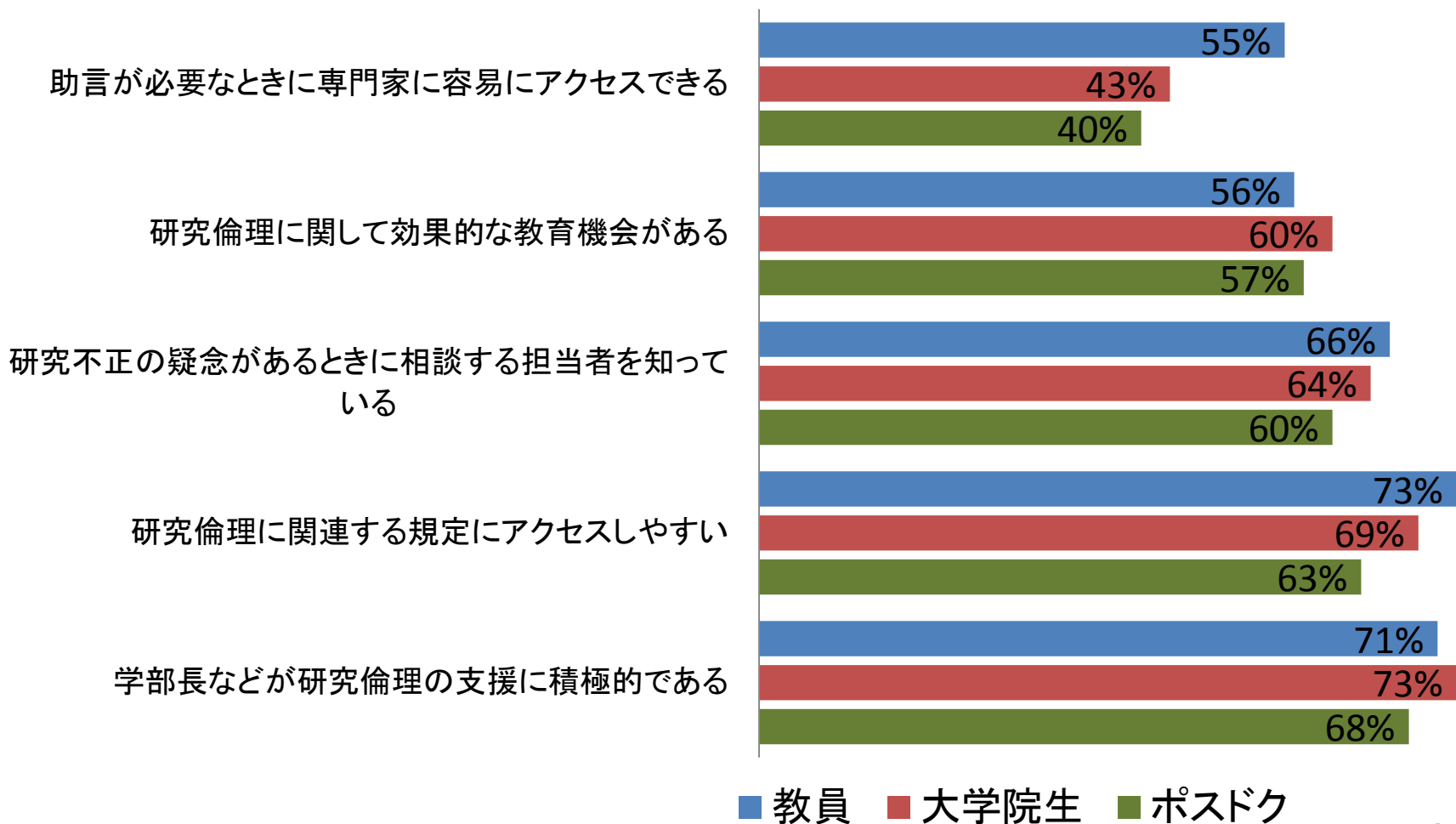
□アセスメントの実施とその結果にもとづく改善

- 組織／ラボ／個人それぞれの階層におけるアセスメント

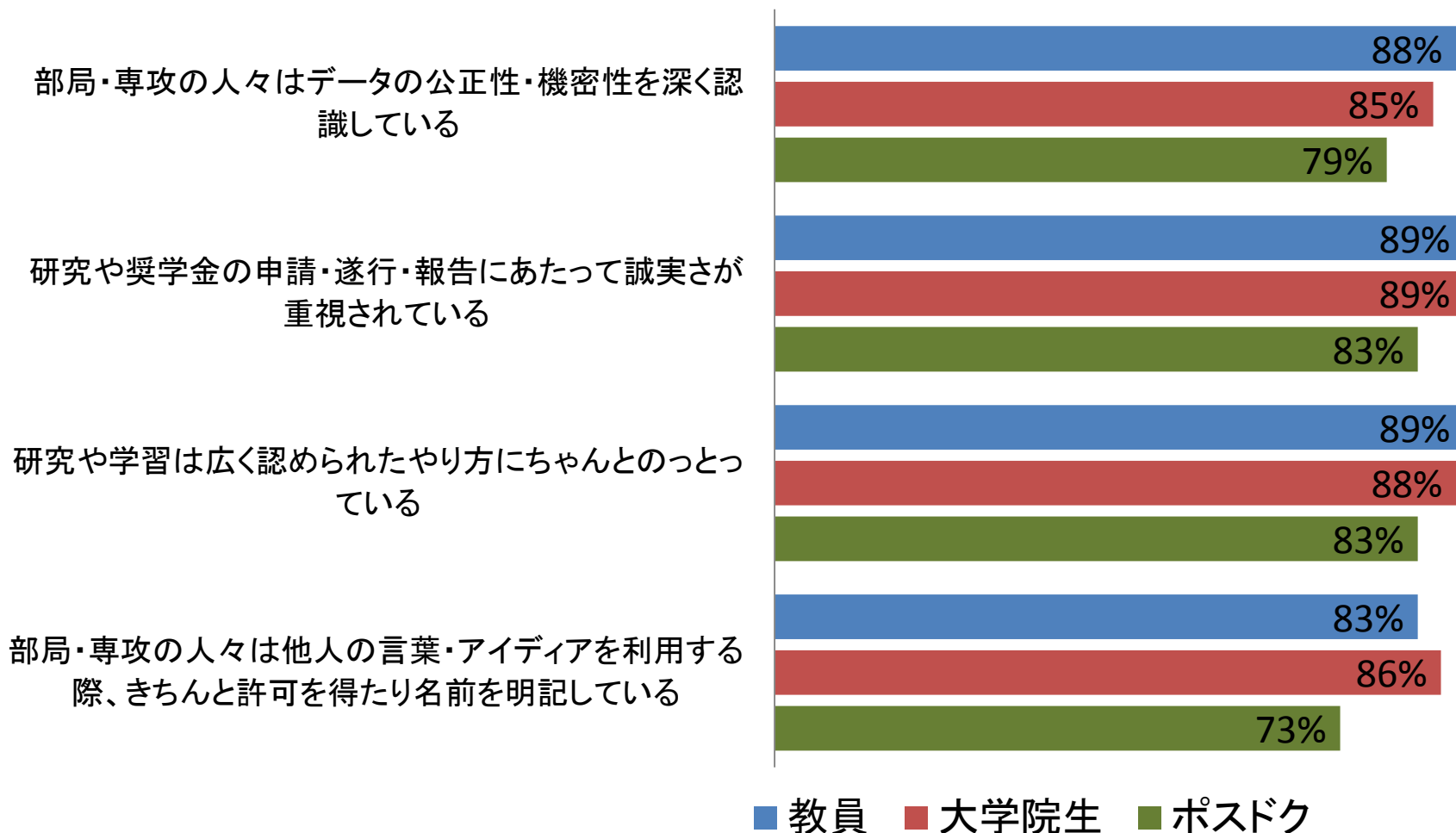
研究活動を左右する研究組織内部の 環境要因の分析枠組み



環境要因：研究倫理に関する大学・研究機関による支援についての認識(米国調査)



環境要因：部局・専攻の研究倫理への意識についての認識（米国調査）



環境と研究行為の関係(米国調査)

